第 85 回　紫友まち歩き

生田緑地まち歩き

今回は、多摩丘陵の東端が多摩川とぶつかるあたりにある広大な公園「生田緑地」にある「日本民家園」と「岡本太郎美術館」です。思いがけない美しさの“紅葉”も楽しめて充実した“まち歩き”でした。

日時：2018 年 12 月 1 日（土）
集合時間：13 時
集合場所：小田急線向ヶ丘遊園駅南口
参加者：9 名参加
案内人：笠井尚紀（解説文）
懇親会：向ヶ丘遊園駅前「てのごい屋」
懇親会参加者：10 名参加
歩いた歩数：？？？歩

〈スタート〉
抜けるような晴天の下、全員時間通り集合。“向ヶ丘遊園”は 2002 年には閉園したものの駅名や周辺の店舗やビルにその名を留めています。駅前ロータリーの先にある自転車置き場も道路の中央にあって、正しく遊園地行きの“豆汽車”の駅の跡であることが歴然としていました。

行きに写真を撮り忘れたので夕方の写真です
明らかに豆汽車の通っていた道だと分かる道を歩き、途中で右側に分かれた道を辿って「生田緑地」へ。なかなかの鬱蒼とした森に「日本民家園」がありました。入場料は、シニア割引で 300 円でした。

〈日本民家園〉
日本民家園＝正式名称「川崎市立日本民家園」は、全国各地に残る古民家 24 棟を移築し、生活用具や農機具、道端の道祖神・庚申塔なども観られる野外博物館です。そもそもは小田急線新百合ヶ丘駅の近くにあった神奈川県内最古の古民家「伊藤家住宅」に始まります。1963 年頃同建物が取り壊されると聞いた横浜国大の研究者…笹川先生：建築史の先生で 018 荻原は習った覚えがあります…が何としても保存するべきと県や市に掛け合い生田緑地への移築を認めさせたのだそうです。さらに、古民家を展示する野外博物館の建設を提案したところ、市政有力者の賛同が得られ 1967 年この地に「日本民家園」が誕生しました。

入ってすぐの豪壮な 2 階建て「0：原家住宅」神奈川県川崎市中原区。古民家と言うより贅をこらした商家で、全ての部材が最高級品です。明治後期に 22 年間も費やして建てられたもので、家具調度品も素晴らしい。

原家の居間

長野県の「5：水車小屋」19Ｃ中

豪壮な「格天井」と「シャンデリア」

園内の紅葉が素敵でした。

福島県の馬宿「1：鈴木家」19Ｃ初

長野県の「6：佐々木家」1731 年　前庭にて

軒先の枯露柿が美味しそうでした。

石置板葺屋根の長野県の薬屋「4：三澤家」19Ｃ中

五箇山合掌造りの「7：江向家」18Ｃ初

家の中ではボランティアが囲炉裏を囲んでいます

千葉県九十九里の網元の家「11：作田家」17Ｃ後

まるで深山幽谷の風情です。

途中で一休み　「12：沖永良部の高倉」19Ｃ後

茨城県の分棟型民家「14：太田家」17Ｃ後

前庭でボランティアが葉っぱでキリギリスを作る

神奈川県秦野の民家「15：北村家」1687 年

北村家の「ひろま」：竹簀の子床

川崎市「18：蚕影山祠堂」1863 年

後ろに神奈川県愛甲郡「19：岩澤家」17Ｃ末

民家園開設の切っ掛けとなった「17：伊藤家住宅」17Ｃ末　入母屋造りの農家

軒先に魔除けの魚の尾鰭が打ち付けてある。

船越の舞台へと登る坂　民家園は登り降りが多い

志摩半島の漁村の神社にあった芝居小屋

「20：船越の舞台」1857

回り舞台　と　奈落にある回転装置

観客席に座って一休み

斜面に建つ古民家を巡ってのアップダウン

結構疲れました。

多摩川渡船場「21：菅の先導小屋」昭和４年

四隅の鉄環は小屋を担いで移動するためのもの

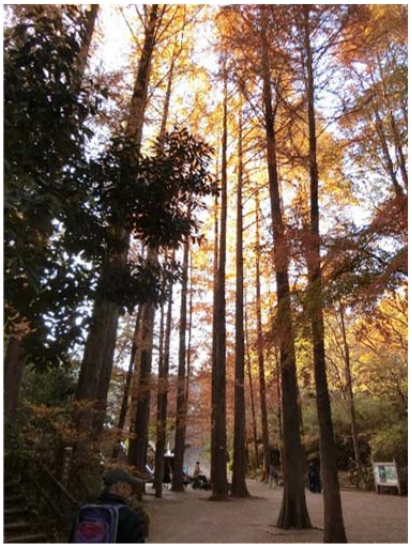
出羽三山の麓から「23：菅原家」18Ｃ末

屋根の途中の“ハッポウ”と呼ばれる高窓

は養蚕のための屋根裏部屋用。

南部の曲り屋「22：工藤家」1751 年

民家園の裏出口から出ました。



メタセコイアの木立を抜けて岡本太郎美術館へ

母の塔

岡本太郎美術館の屋外庭園に建つ高 30m

何本脚だったっけ？
大地に根を張り天空へ伸びるエネルギー

メタセコイヤの並木を振り返る
左側は洒落たカフェ　コーヒーブレークす

る人もいました。

岡本太郎美術館内でここだけ撮影可
1999 年開館：岡本太郎が川崎市に寄贈した
1800 点の作品を収蔵
今日は、「イサムノグチと岡本太郎展」を開催中で、なかなか楽しいひと時でした。

夕方の道を向ヶ丘遊園駅に向かって歩く

「てのごい屋」で九州料理の懇親会

お疲れ様でした。　　文責：018Ａ荻原

日本民家園のハイライト　白川郷・五箇山の合掌造りが並ぶ佐々木家前庭にて集合写真

2018 年 12 月 1 日（土）

浦城・小林俊・笠井・荻原・柴田・川口・脇田

安藤・倉林